

日本発ウィーン便り : Wiener Philharmoniker

ウィーンに音楽を聴きに行く。というと大体は、「ウィーンフィル？」という反応が返ってきます。すっかり有名なウィーンフィルの正式名称は Wiener Philharmoniker (ヴィーナー・フィルハーモニカー : ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団) といいます。全員がウィーン国立歌劇場管弦楽団の団員で、そのうち、入団を認められた者が Wiener Philharmoniker (自主運営団体) のメンバーとして演奏するんです。9月から6月の間ほぼ毎日ある国立歌劇場でのオペラやバレエの演奏に加え、Wiener Philharmoniker としての定期公演+海外ツアーなど、演奏回数で言えば、世界一忙しい楽団といえるかもしれません。

で、本拠地ウィーンであれば、Wiener Philharmoniker の演奏を聴くことは簡単？と思われるかもしれませんが、実はウィーンで聞くのが一番難しいかもしれません…。

というのも、Wiener Philharmoniker の演奏会は

- ・ Wiener Philharmoniker 主催の演奏会
- ・ Musikverein (ムジークフェライン : 楽友協会) 主催の演奏会

と大きく2種類。(演奏会の内容はどちらも同じことが多いようです)

Wiener Philharmoniker 主催の定期演奏会は、定期会員だけで常に完売なので、一般販売はありません。(キャンセル分のみが販売される感じです。ちなみに定期会員になるのは、ウェイティングリストに名前を載せて、空きが出るまで待つしかないのですが、今のところ、なんと13年待ちだそうです。)

Musikverein 主催のコンサートは、定期演奏会の会員(通し券を買っている人)で埋まらなかった分だけ販売されます。いずれも同じ演目で2公演あります。要は、一般販売されるチケットが本当に少ないのです。

約3か月前の一般販売開始の日。久々に「命がけで」チケットを取ったのが、今回の Musikverein 主催のコンサート。

久々の Wiener Philharmoniker の演奏会です。(しかも大好きな指揮者！)

なんと、Musikverein の200周年の記念コンサートでした。

もうウキウキでお出かけです。



Musikverein



この日の演奏会のポスター。(ポスターだって金色です。) Ausverkauft (アウスフェアカウト：完売) となっています。開場時間になったので、チケットを見せて、



こんな階段を上っていきます。チケットもパンフレットも、もちろん金色です。☺



Großer Saal (グローサー・ザール：大ホール。別名を「黄金のホール」) に到着。

最初の一つの音から、もうなんだか圧倒的でした。CDで聞く音が2Dであるとすれば、3Dの迫力。一つ一つの音が全身に伝わってくるというか、黄金の音が降りそそぐ感じです。

ああやっぱりこの黄金のホールで聞くウィーンフィルは、まったく別の次元の響きですね…。

最後の曲は、ラストに向けての盛り上がり、全身鳥肌が立つような感じで、涙が出そうなくらい感動。気が付けば、ブラボーの嵐と総立ちのスタンディングオベーション。(ウィーンでは、ドイツ式の拍手=手の拍手+足踏みはやりません。) ちなみに、日本ではお決まりの「アンコールでもう一曲」はありません。途中の休憩時間にすっかり意気投合した隣席のクラシックファンのおば様とお互い興奮状態で「すごかったね～」と語り合いました。

今回のコンサートのプログラム。

Jubiläumskonzert 200 Jahre Gesellschaft der Musikfreunde in Wien

Datum: 2012-05-06, 11:00

Ort: Musikverein, Großer Saal (Wien, Österreich)

Dirigent: Riccardo Muti

Hans-Peter Schuh, Trompete

Singverein der Gesellschaft der Musikfreunde in Wien

Programm:

Antonio Salieri: Lob der Musik, Venite gentes

Joseph Haydn: Trompetenkonzert Es-Dur, Hob VIIe:1*

Franz Schubert: Symphonie Nr. 8, C-Dur, D 944



いつ来ても、やっぱりここは特別なホールです。

Wiener Philharmonikerの演奏会、ということになると、演奏会の予定に合わせる必要があるのですが、なかなか難しいですが、どんな演奏会でも一度はこのGroßer Saalで聞いてみる価値はありますよ。